

大仙市SDGs未来都市計画 全体計画概要

計画全体のタイトル

課題先進地の挑戦 Well-beingにあふれる持続可能なまち

概要

SDGsを原動力に、経済・社会・環境の三側面において全体最適化を図りながら、ウィズコロナ・ポストコロナにも対応可能な社会を再構築し、地域の全ての主体が責任と誇りを持ち、人だけでなく、地域や自然環境など、全ての要素が取り残されることのない市の隅々まで元気な「Well-beingにあふれる持続可能なまち」を形成する。

1. 将来ビジョン

地域の実態

豊かな自然を背景に、国内有数の穀倉地帯が形成され、食や歴史、文化など豊富な地域資源を有する田園交流都市。合併以来、地域の維持・発展に向けた素地が形づくられてきたものの、最優先課題である人口減少・少子高齢化をはじめ、多くの課題を抱える「課題先進地」となっている。

2030年のあるべき姿

Well-beingにあふれ 未来に向けて持続発展する 田園交流都市だいせん

- 経済** 地域資源を活かした魅力ある産業が生まれ 多様な人材が活躍する活力にあふれるまち
社会 若者が躍動し市民一人ひとりがいきいきと輝き 健幸に安心して暮らせるまち
環境 豊かな自然が守り継がれ誰もが安全・安心に暮らせる 人と環境にやさしいまち

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット



2. 自治体SDGsの推進に資する取組

自治体SDGsに資する取組

- 経済** だいせんSEDの推進、農業と食の活性化、地域資源を活用したツーリズムの推進
社会 出会い・結婚・出産・子育て支援、デジタルトランスフォーメーションの推進、健幸で安心なまちづくり、人材育成、市民の活躍促進
環境 カーボンニュートラルの推進、豊かな森づくりの推進、災害に強いまちづくり

情報発信

- 域内** 市広報やホームページ、SNS、FMはなび等による周知。中学生サミットによる若い世代からの発信。秋田県SDGsパートナーとの連携。
域外 SDGs官民連携プラットフォーム、SDGs日本モデル宣言、協定締結企業との連携による周知
海外 友好交流都市（韓国唐津市）との交流、大曲青年会議所と連携した台湾との交流

普及展開性

- ・人口減少・少子高齢化が全国よりも速いスピードで進行する本市は、様々な先進課題に直面し、将来の地方都市の縮図である。
- ・取組内容はいずれも現実的で、持続可能なまちづくりに不可欠なものであり、共通する課題を抱える都市への普及展開性が高い。
- ・秋田県SDGsパートナーと連携を図ることで、県全体への普及展開が期待できる。

3. 推進体制

各種計画への反映

- ・第2次大仙市総合計画（後期実施計画）
- ・第2期大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・大仙市過疎地域持続的発展計画
- ・第2次大仙市環境基本計画 ほか

【予定】
大仙市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

行政体内部の執行体制

- ・特別職や市幹部職員で構成する庁議を推進本部として位置づけ、市長の強いコミットメントのもと、各部署が主体的かつ全庁横断的に取組を推進。
- ・総合計画や総合戦略との一体的な推進を図るため、各部署との調整等は総合政策課で実施。
- ・大仙市総合戦略推進会議と連携を図る。

ステークホルダーとの連携

- 域内外** 市民、地域協議会、秋田県SDGsパートナー、商工団体等、学校、大学、金融機関、連携協定企業・団体等
国内自治体 秋田県、仙北市、美郷町、交流都市（座間市、宮古市、宮崎市）
海外 交流都市（韓国唐津市）

自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

【秋田県SDGsパートナー登録制度の活用】

秋田県では、SDGsの取組を実施している企業・団体を「見える化」し、官民一体となってSDGsを原動力とした持続可能な地域社会の実現を図るため、登録制度を創設している。本制度を活用し、県全体の多様な主体とのパートナーシップを構築しながら、持続可能なまちづくりを加速させるとともに、オール秋田の一員としてSDGsの推進に貢献していく。

大仙市SDGs未来都市計画 特に注力する先導的取組概要

取組名： 未来に向けて持続発展するWell-being創造プロジェクト

取組内容の概要： 課題先進地である本市において、SDGsを原動力に、若者の定住・活躍や健幸づくりをはじめとするヒューマン・デジタル・グリーンに重点を置いた経済・社会・環境の三側面にわたる取組を推進し、全国の地域課題の解決にもつながる地方創生の実現を図り、「市全体のWell-beingの創生」と「持続発展可能なまちづくり」を目指す。

